

新たなビジネス事例

印刷イノベーション

ITソリューション事例

大学運営を効率化するシラバス システムを自社で企画・開発・運用 イエズミ印刷株式会社(東京都)

印刷という枠を超えて、IT技術とマルチメディア技術を駆使し、顧客に最適なソリューションを提案しているイエズミ印刷株式会社。同社は、1907年の創業以来、100年以上にわたって印刷事業を展開してきた老舗の総合印刷会社である。そんな同社では、1990年代末から既存の印刷案件から派生したITソリューション事業に着手、顧客の原稿制作や校正作業のデジタル化を推進し、Web制作のみならず、各種システム開発、アプリ開発、映像制作、CM制作にも取り組むようになり、顧客に紙メディアにこだわらない、最適な伝え方を提案し事業の幅を広げている。家住社長にITソリューション事業を中心に話を伺った。



■本社ビル

■利便性の高いLMSを開発する

家住社長は、大手総合商社に6年勤務した後、1997年に退職し、ご尊父が社長をしている現会社に入社した。当時は厳しい経済環境下ということで立て直しを図る必要があったという。

同社が今日、印刷業だけでなくITソリューションに注力し軌道に乗せることができた背景には、家住社長の入社が大きく影響している。「入社した時は印刷のことが分かっていませんでしたから、それがかえって商社で知見を得ていたIT技術を活かす要因になったと思います。印刷会社でも

印刷に捉われず、マルチメディアに展開していく必要性を感じたのです」と振り返る。

その新しい技術を取り入れる意志が現在の同社を形作っていると言えよう。代表取締役社長に就任する2010年までに、次々と新しい事業・サービスに着手していった。

社長に就いた当初、「私たちの仕事はお客様の思いを伝えることであって、紙媒体に拘わらなくてよい。お客様の要望を聞いて最適なコンテンツや仕組みを提案していきましょう」と、社員に訴えた。その理念に社員たちは共感した。そして、Webシステムを開発できる人材を採用し、次第に印刷に捉われないマルチメディアを扱う業態へと進化していった。

「教育機関で働いていた人材が入社し、大学の業務を改善するためのシステム開発に意欲的だったこともあり、次々とシステム開発に携わっていったことが大きいです。彼とはもう20年来一緒に仕事をしていますが、非常に志が高くいつも新しい技術を学び仕事に活かしています」とのこと。有能な人材がいかに重要であるかが分かる。今では社内で定期的に会議を開き、新しいサービスの企画を社員間で話し合って提案しているという。

同社は、大学などの教育関連向け書籍・教材、履修登録用紙、時間割などの印刷をメインに、各種商業広告印刷や金融業界におけるディスクロージャー関連印刷などを手掛けている。家住社長は1997年の入社後すぐにITソリューション事業部を立ち上げ、web制作、システム開発、アプリ開発、各種デジタルコンテンツ制作に着手。その後、映像制作、プロモーション動画制作、CM制作などの事業も展開するようになった。

その中でも家住社長は「当時お取り扱いをしていた大学が、毎年シラバスを制作する際に、教員との原稿のやり取りをメールやWordを駆使して編集、管理している状況を見て、システム化の必要性を強く感じ、1998年にシラバスのデータベース化とWebシステム上での編集・管理・運用システムを開発しました」と話す。

そのシラバスシステムは「e-campus System」と名付け

最前線!

第6回

この連載では、既存の印刷製品の優良事例や非印刷領域における先端事例を紹介します。

られた、大学のカリキュラム管理やシラバス制作支援の経験と実績を基にした独自のシステムである。大学管理者や教員のシラバス制作に関わる負担を大幅に軽減することができるのが特徴だ。

■企画・開発で大切なのは「発想力」

その後、学生向けにシラバスと授業内容を結びつけ、学修効率を高めるLMS (Learning Management System=学習管理システム) プラットフォームを開発。「既存アプリケーションを活用しながら導入コストを抑制し、セキュアで安定した運用を実現し、大学独自のカリキュラム管理、学習支援、学生ポートフォリオなどを支援します。そして、直感的で理解しやすい操作性を目指しました」とのことだ。

同社は代理店を介さずユーザーである大学や金融機関と直接取引し、リーフレットやカタログ、パンフレット類の印刷物を受注していたため、紙からWebシステムへ提案がしやすかった面があった。

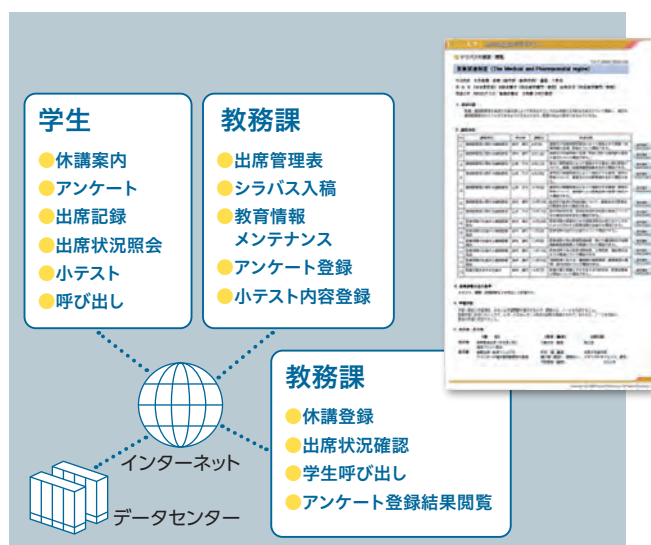
「お客様のニーズや情報に直に触れていたため、的確なコンテンツの提案ができる体制でした。ニーズや状況に応じて、印刷物制作、Webサイト制作、システム開発と振り

分けることもできました。さまざまなツールにコンテンツを落とし込んで提供していくことで、当社の存在価値を見だしていった感があります」。

コロナ禍を機に、大学側の学生サービス効率化・自動化、学生とのコミュニケーションツールへのニーズが増えている中で、さまざまな目的に沿って個別にツールを導入し始めていた。同社では、大学が個別に導入した機能を統合するシステムの開発に着手。「当社はGoogle Cloud Partner Advantageに なっていますので、大学に対してGoogleのさまざまなアプリケーションと連携することを促しつつ、Googleのアプリを活用して、大学独自のアプリや教育用ソフト、学習コンテンツを開発し提供しています」。

また、企業向けアプリ開発も行っているが、「昔は単体のアプリを開発しインストールしてもらっていましたが、最近はブラウザベースのクラウドサービスに変わってきています。お客様の業務データや商品データ、個人情報をお預かりし、データベース化して最適なソリューションを提供しています」とのことだ。顧客情報を扱うため同社では情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格であるISO 27001を、2007年に業界に先駆けて取得し、情報セキュリティには万全を期している。

今後は大学も少子化の影響で運営がますます難しくなっていくことが予想される。「就職先の情報提供や大学への寄付などを効率的に行えるよう、卒業生とのネットワークを構築するシステム開発を構想しているところ」とビジョンを述べる家住社長。最後に「大切なことは『発想力』だと思います。お客様と話している中で何を求めているのかを感じ取り、お客様が求めるもの以上のコンテンツやシステムを考え、作り出していくことです。そのことを社員には常々言っています」と締めくくった。



■「シラバスシステム」の全容

イエズミ印刷株式会社

所在地：東京都中央区日本橋茅場町1丁目12-9イエズミビル

代表者：代表取締役社長 家住 英樹

創業：1907年10月

U R L : <https://www.iezumi.co.jp>